

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|------------------|
| I. 理念に基づく運営 | <u>11</u> |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | <u>2</u> |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | <u>6</u> |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | <u>11</u> |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | <u>30</u> |

| | |
|-------|----------------------------|
| 事業所番号 | 2774600726 |
| 法人名 | 株式会社 カームネスライフ |
| 事業所名 | グループホーム ここから柏原 |
| 訪問調査日 | 平成20年9月12日 |
| 評価確定日 | 平成20年10月20日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ |

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月16日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 2774600726 |
| 法人名 | 株式会社 カームネスライフ |
| 事業所名 | グループホーム ここから柏原 |
| 所在地 | 大阪府柏原市堂島町2番14号 (電話) 0729-70-2227 |

| | | | |
|-------|----------------------------|-------|-------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ | | |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年9月12日 | 評価確定日 | 平成20年10月20日 |

【情報提供票より】(平成20年8月19日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|----------------------------|
| 開設年月日 | 平成18年3月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 15 人 | 常勤 | 2 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 13.1 人 |

(2)建物概要

| | |
|------|--------------------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り |
| | 3 階建ての 1 階 ~ 2 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-------------------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 60,000 円 | その他の経費(月額) | 24,000 円 | |
| 敷金 | 有() 円) 無○ | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(300,000 円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,800 円 | |

(4)利用者の概要(8月19日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 7 名 | 女性 | 10 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 6 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83 歳 | 最低 | 77 歳 | 最高 | 94 歳 |

(5)協力医療機関

| | | |
|---------|----------------|--------|
| 協力医療機関名 | 医療法人医真会 八尾総合病院 | せこぐち歯科 |
|---------|----------------|--------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年3月、奈良東病院の理事をしておられる鉄村英樹氏が、従来のグループホームのイメージである「家庭的な雰囲気ของกลุ่มホーム」は維持しながら、「介護度の低い人だけでなく、介護度の高い人も受け入れていく」という基本方針の基に設立された。終の棲家としての受け入れ体制が最初から出来ている。「ここから柏原」は、JR柏原駅から北へ川沿いに遊歩道を歩いて約10分のところに佇む、閑静で素晴らしい住環境にある。また、当事業所は事業所の主催する夏祭りに近隣の住民の協力を得たり、地域の地藏盆に参加するなど、地域との積極的な交流が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 今回が初めての評価で、管理者や主だった職員でこの評価に取り組み、要改善項目を見つけ出し改善に取り組もうとしている。今後は、全職員でこの評価に取り組みサービスの質の向上に努めて欲しい。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者や主だった職員で自己評価がされている。この評価は、全職員で行い、これからのサービスのあり方について共有する必要がある。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 2ヶ月に一度、市職員・区長・民生委員・利用者家族等と事業所から管理者・ケアマネ・看護師が参加して会議、日々の取り組みや事故報告について話し合っている。そこで出た意見は事業所の運営に活用し、参加していない利用者家族等へも配布するなど、サービスの向上に努めている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 意見箱を設けている他、運営推進会議に参加して貰い、不満、苦情を表せる機会を設けている。でた意見はスタッフ会議で図り、運営に反映させるようにしている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 事業所の夏祭り・行事等は、自治会や本屋さんの協力を得て掲示板でお知らせして貰ったり、近隣のマンションの方々に手伝って貰うなど、地域全体と交流を図っている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の理念の他に、1. 心を許せる人間関係、安心できる場所をつくります。2. 本来あるべき生活能力を奪うのではなく、引き出します。3. 同じ生活者として、うれしい時には共に喜び、たのしい時には共に笑うホームにしていきたい。と、事業所独自の理念をつくりあげているが、地域住民とのことが謳われていない。 | ○ | 家庭的な雰囲気を作り上げていく、質の確保についての理念は謳われているが、地域住民との拘わりが謳われていない。家庭的な環境に加えて地域住民との交流にも配慮した理念を作り上げて欲しい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日の朝礼時には唱和、スタッフ会議の時には、掘り下げて話し合うなど、理念を意識した介護に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 事業所の夏祭り・行事等は、自治会や本屋さんの協力を得て掲示板でお知らせして貰ったり、近隣のマンションの方々に手伝って貰うなど、地域全体と交流を図っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者や主だった職員と評価に取り組み、要改善項目を見つけ出し改善に取り組んでいるが、全職員のものにはなっていない。 | ○ | 評価は主だった職員だけでなく、全職員で取り組まなければより良い効果は望めない。今後は全職員で取り組むようにして欲しい。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度、市職員・区長・民生委員・利用者家族等と事業所から管理者・ケアマネ・看護師が参加して運営推進会議を行っている。 会議では日々の取り組みや事故報告について話し合い、そこで出た意見は事業所の運営に活用し、参加していない利用者家族等にも報告書を配布している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の担当職員とは、事業所の事故や対応の方法等について折に触れ、直接あるいは電話で相談するなどしてサービスの質の向上に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 2ヶ月に一度「マスカット新聞」を発行している。利用者個人スペースも設けられ、暮らしぶりや健康状態などをスタッフから家族へとして報告されている。その他、事故など急を要する事については、その都度報告がされている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設けている他、運営推進会議に参加して貰い、不満、苦情を表せる機会を設けている。それらは、スタッフ会議で図り、運営に反映させるようにしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動の際には、利用者のダメージが出来るだけ少なく抑えられるように、馴れるまでユニットの全職員で拘わっている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外での研修は、就業時間内で受ける機会が設けられている。外部研修受講時には、受講者の知識だけに止めず、その研修内容を他の職員と共有するために伝達講習が行われている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣のグループホームが行っている勉強会に積極的に参加し、他の同業者の取り組みを学習しながらサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|--|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | いきなり入居するのではなく、7日間ほどの体験入居をしてもらい、他の利用者や職員とも徐々に馴染めるよう工夫されている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 洗濯干し、調理、園芸、絵画など、利用者一人ひとりの得意の分野で力を発揮してもらい、お互いが学んだり、支え合う関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活歴や日々の行動や表情から、本人の思いをくみ取るように努め、利用者本位で生活できるよう支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族等とケアのあり方について日々の会話の中で話し合い、アセスメントを含め職員全員の意見を、介護計画に反映させている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | モニタリング、カンファレンスを基にして、現状に即した新たな介護計画に反映させているが、記録が充分とはいえない。 | ○ | 介護計画は見直しを含め現状に即したものとなっているが、計画書の書き直しが徹底されていないので、今後記録の徹底も望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人、家族等の状況に応じて冠婚葬祭時や通院における送迎など必要な支援については臨機応変に対応、柔軟な支援をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院についても本人や家族の希望に添って柔軟に対応している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 本人、家族等とは、終末期のあり方について入居時から指針を説明、かかりつけ医とも話し合っている。家族の意向は職員に伝達、全員で方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | トイレ誘導や整容にはさりげない声掛けや対応がされている。個人情報に関する書類の保管にも気が配られている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 事業所のスケジュールに利用者の生活が合わされるのではなく、利用者一人ひとりの生活リズムに合わせた、その人らしい生活が出来るよう支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理、盛りつけ、後片付けなど、利用者と職員、共に行い、同じテーブルで楽しく食事をするなど雰囲気作りにも工夫がされている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本は週3回としながらも、曜日や時間帯は固定せず、職員が対応出来る時は何時でも入浴出来るようにしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 掃除、洗濯、調理、園芸、絵画など得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、生活歴を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気の良い日には、利用者の希望にそって、事業所のすぐ側にある遊歩道を歩いたり、近所のスーパーへ買い物に出かけたり、足湯へ浸かりに行ったりしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中鍵を掛けないケアの工夫として、利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかみ、見守りの方法を徹底している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回、消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方など消防訓練を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 外部より1日当たりの摂取カロリーを基準としてカロリー計算された食材の仕入れをしている。一人ひとりの食事量と水分摂取量も毎食チェックしたり、刻み食を提供するなど栄養バランスや一人ひとりの状態に応じた支援がされている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間のソファやテーブルを家庭的な家具で揃えたり、壁に利用者と職員と共に季節感のある手作りのもので飾り付けをするなど、生活感のある親しみやすい雰囲気を探り入れている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には利用者本人が使い慣れた日用品や写真の他仏壇が持ち込まれるなど、居心地よく過ごせるような工夫が見られる。 | | |